



つるみね
神奈川県立鶴嶺高等学校



〈学校案内図〉

利用交通機関

- JR 相模線 北茅ヶ崎駅 下車 徒歩 12 分
- JR 東海道線 茅ヶ崎駅
北口①②番乗場よりバス乗車
「ニュータウン入口」下車 徒歩 2 分
※①②番からのバスは、すべて
「ニュータウン入口」を通ります。

所在地 神奈川県茅ヶ崎市円蔵 1 丁目 16 番 1 号
 電 話 (0467) 52-6601
 F A X (0467) 54-2124
 U R L <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/tsurumine-h/>
 創 立 昭和 50 (1975) 年
 課 程 全日制
 設置学科・生徒数・学級数

	1 年	2 年	3 年	計
普 通 科	388	391	378	1,157
学 級 数	10	10	10	30

(生徒、学級数については令和 7 (2025) 年 4 月 1 日現在)



(1) 学校の特徴

○学校の概要

昭和 50 (1975) 年に開校し、今年、創立 50 年目を迎えました。本校では開校当初から、毎年、海外帰国生徒や外国人留学生を受け入れてきました。

これまでの卒業生数の合計は 19,406 名で、国内外の各分野で活躍しています。バス通りから正門に至るまでのイチョウ並木、緑豊かな中庭が本校の歴史と伝統を感じさせています。

○教育方針・教育目標

「教養豊かにして国際感覚に富み、心身ともに健康で意志強く、常に相手の立場を尊重して行動できる人間を育成する。」を教育方針とし、「豊かな知性と徳性の涵養、充実した体力の育成、個性と能力の開発、広い視野の養成」を教育目標としています。

外国人の先生と英語を楽しく学びながら、学力をつけるとともに、豊かな国際感覚を育てることを目標に、グローバル教育を推進しています。これまで 17 年間にわたりイギリスの高等学校、5 年間にわたりニュージーランドの高等学校と交流があります。ニュージーランド、イギリスの学校にそれぞれ約 20 名の生徒が訪問し、現地でホームステイをしながら、学校に通い日本文化のプレゼンテーションを行ったり、現地の生徒と一緒に勉強したりしながら交流を深めています。

一方、青少年赤十字(JRC)や国際交流委員会を中心に、ボランティア活動への参加も盛んです。

○学校行事

全生徒がゆかた姿で踊る民謡が名物の体育祭、9月には文化祭があります。「ワールド・スポーツ・フェスティバル」といった生徒が企画する学校行事もあります。また、クラス対抗で競う合唱祭も恒例の行事です。修学旅行は令和7(2025)年度から関西方面に行っています。

○部活動

運動部は男女合わせて20部、文化部は13部、同好会が4団体あります。約70%の生徒が部活動に所属していて、活動は非常に盛んです。

令和6(2024)年度は陸上競技部の男子800mで関東大会出場、女子5000m競歩で関東大会9位、関東高等学校ビーチバレーボール選手権大会(女子)出場、男子ソフトテニス部が国民スポーツ大会県予選(個人)5位、男子フットサル部が全日本フットサル選手権神奈川県大会3位、女子ハンドボール部が高校総体県予選でベスト8、ダンス部が高校総体新人大会で8位入賞、文芸部が関東地区高校生文芸大会・短歌部門の県代表に選出、軽音楽部が県軽音楽コンテストで2バンドが専門部会長賞を受賞しました。今後もさらなる活躍を目指しています。

○施設・設備

特別教室を含む54教室にエアコンを設置するなど、快適な学習環境を整備しています。令和6年度からは各教室に電子黒板が導入されました。国際交流室やコンピュータールーム、トレーニング機器を備えたトレーニングルームなどもあります。また、自習室では、放課後や夏休み中にも登校して勉学に励む生徒の姿が見られます。

(2) 教育課程

3学期制の普通科の学校として、学習活動を充実させています。また、新しい大学入試制度に対応する英語4技能を伸ばす取組を行っています。

1年次から総合的な探究の時間(グローバルスタディーズ)でグローバル教育を推進しています。また、2年次では進路に応じて科目選択を行い、さらに3年次においては、進路目的に沿ったより細やかな科目選択が可能な教育課程を編成しています。

(3) 海外帰国生徒の学習

海外帰国生徒の入学のための特別募集が、各学年15名、計45名あります。現在、1学年4名、2学年11名、3学年10名の海外帰国生徒が在籍しています。

海外帰国生徒はできるだけ早く本校の教育になじむように、一般のクラスルームに所属します。しかし、海外帰国生徒の在留国および在留年数が多様であり、また、日本語の理解力や現地校の学習科目・学習進度が異なっているため、いくつかの科目で「個別(小集団)授業」を行っています。その科目の特別授業を受けるかどうかは、担当の先生との話し合いによって決めます。

日本語の理解も進み、本校の授業にも慣れてきたら、担当の先生と相談し、その結果により学期の途中で所属クラスの授業に戻ることも可能です。

(4) 海外帰国生徒の卒業後の進路

「入れる大学」ではなく「入りたい大学」を目標に、多くの生徒が進学を目指しています。